

八紘嶺

（1918メートル）

大谷崩ノ頭

（1999メートル）

5時間30分☆☆☆

はっこうれいのおおやくずれのかしら

八紘一字は先の大戦の名残、山名は冠松次郎とその時に止宿した梅薫楼の主人により戦時中まだ山名のな
いこの山に登った時に付けられた。

大政翼賛会が組織され戦争に突き進む中、登山界にも影響を及ぼしたことが窺える。大谷崩れの崩壊は宝永地震（宝永4年）によるもので、富士山の宝永噴火を起こした日本最大級の地震と言われる。この大谷崩れは、長野県の稗田山崩れ、富山県立山の鳶山崩れと合わせて日本三大崩れとされる。

梅ヶ島温泉バス停から林道に入ればわずかで登山道入口に出る。杉・檜の急な尾根でベースを作りながら



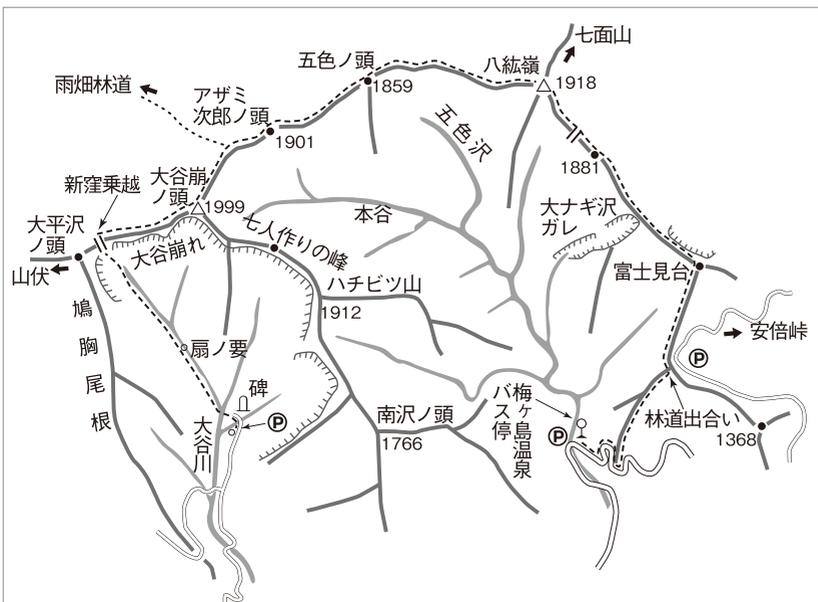
八紘嶺へのアプローチ

ゆっくり登ろう。自然林に変わる辺りで林道に出る。車ならこの駐車場が利用できる。ブナ・ヒメシャラ

などの原生林の尾根がしばらく続き新緑とシロヤシオとミツバツツジの清々しい風景が展開する。安倍峠への分岐を見送り一息登れば稜線の富士見台で富士山と対面できる。ここから大谷崩ノ頭までは山梨県との県境線を行くことになる。尾根は部分的に荒れてロープが掛けられて



露岩の点在する八紘嶺



いる。オオナギ沢ガレ淵を過ぎれば山頂までは灌木のなだらかな登り、ここでもシロヤシオ・ミツバツツ

ジ、さらにオオカメノキの花が楽しめる。コブを越えカラマツ林が見え出せば頂上は目の先だ。稍越しに南アルプスと富士山が見える。

北の尾根は七面山に通じる。西の尾根がコースで、最低鞍部まで比高150メートルの急な下り、鞍部から北に巻く。ガレ場には固定ロープが掛けられている。尾根に上り五色ノ頭からアザミ次郎ノ頭を越え、雨畑林道に下る道を見送る。続くダケカンバの広い尾根を登れば大谷崩ノ頭だ。山頂を削る断崖が谷底に一気になだれ落ちる様は迫力があり、地球の生命を見せつけられているようだ。ガレ淵を注意しながら下れば新窪乗越に出る。ここから砂礫の崩壊地を一気に下る。（山伏の頂を参照）



雑草が着床した大谷崩れ

参考タイム

梅ヶ島温泉バス停（10分）登山道取付点（50分）安倍峠林道出合い（40分）富士見台（1時間10分）八紘嶺（1時間20分）大谷崩ノ頭（40分）駐車場（40分）新田バス停
2万5千円 梅ヶ島